椰子の実

宮崎　チズ
（会員・佐伯市中村）

青山を経由しての蒲江行き。あれは八、九年前の夏のことでした。車で山越しして海に出ると、いくつもの大小の岩礁が波間に見え隠れしている。空の青さ、海の碧。そして黒潮の流れ来る温い海水につかりっぱなしの浜辺の一角で、貝採集した忘られない思い出の場所を、折にふれては懐かしんでいる。

あの仙崎の山頂からの、水平線の無い空と海の眺め。春は赤い藪椿が咲きこぼれ、つつじも山を色どる。そして夏は浜木綿の花の涼しげに、南国情緒を漂わせる日豊海岸の風景は誠に美しい。それ故に飽きることを知らず自然に人々は歌を口ずさみ、歌が生まれて来るのだろう。

つい先頃、屋形島に椰子の実が流れ来たところだと聞かされ、夢のようであり、海の面をかすめる風の音にも古の人たちのささやきが伝わって来る思いがして来る。

黒潮に遠く運ばれ流れよる椰子の実ひとつ砂にうもれて

この歌は七、八年前羽柴先生らが屋形島に珊瑚礁を見に行ったとき、大内須磨子さんが歌ったもの。藤村の詩に劣らない素晴らしい歌であることを後日知らされた。

それに加えて

三隈野の浦の浜木綿百重なす心は思えども直にあわぬかも

この柿本人麻呂の歌に再び会えた感動に私は共にロマンの再燃をかきたてられた。

夏の海泰然として眺めをりし君のみ姿思い出さるる

鹿児島へ開業せんと別れたる無口の君の海に顕ち来る

海鳴りの潮の中に君の声忘れ給うなと風の吹き来る

文化財保護講習会に参加せり大内須磨子の短歌読まるる

黒岳の原生林に署名なすイヌワシゐると確認ありて